

もうすぐ夏休み！今年もあまり遠出ができず、毎年楽しみにしていた盆踊り大会もなくなり残念に思っています。盆踊りの翌日は、なぜか肩こりが無くなってスッキリするのが不思議でした。「月が〜でたで〜たあ」と手を上にあげる動作が肩こりに効くのでしょうか。いつも重いリュックを背負っているY校生の肩こり持ちのみなさんも、ぜひ盆踊りストレッチ？を試してみてください。それはちょっと……と思われた方には『元気になれる とっておきのツボ療法』鶴沼宏樹（492ウ）、『スゴレッチ』萩原健史（498ハ）、『カラダを整える やさしいヨガ』近藤真由美（498コ）などの本に、気軽に取り組める健康法が載っているのでお薦めです。

司書

夏休みの特別貸出！

夏休み前の特別貸出期間となりました。

返却は **8月31日まで 20冊** 貸出しできます。



たくさん本に触れて、充実した夏休みになりますように！

中島敦 展 @ Y校図書館

図書館内で開催中の中島敦展が、残すところわずかとなりました。パネルを見ながらちょっとしたクイズに答えるワークシートもあります。ぜひ、7月15日までのこの機会に、中島敦が息子たちに送ったかわいい絵葉書や、作品を収めていたバスケットなどの写真を見てみませんか。

「隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に運ね、ついで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃むところ頗る厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった」で始まる中島敦『山月記』の、漢文訓読調の文体の快い響きは、「青空朗読」というサイトで耳から味わうことができます。

<https://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd488.html>



佐藤さとる 展 @ 県立神奈川近代文学館

中島敦展でご協力いただいた県立神奈川近代文学館で、7月22日から9月26日まで「佐藤さとる展」が開催されます。

小さいときに『誰も知らない小さな国』などのコロボックルのお話を、ワクワクしながら読んだ方もいるのではないのでしょうか。

私が今でも 草むらの陰には小人がいるのかも？
 と思ってしまうのは、この物語の影響を大きく受けているからだと思います。

「佐藤さとる展」の詳細は、神奈川近代文学館のホームページをご覧ください。

<https://www.kanabun.or.jp/exhibition/14859/>



📖 地元 横浜の本 📖

○朝井リョウ『正欲』(913.6 ア)に弘明寺や蒔田など身近な地名が出てきてびっくりしました。さらに物語のカギを握るような場所として、Y校生が避難訓練で行く清水ヶ丘公園が出てくるこの小説は、正しいとはどういうことかという、自分が今まで持っていた価値観について深く考えさせられる本です。

Y校図書館には、本のタイトルに横浜の地名が付いた小説もたくさんあります。また、昭和の文豪たちも港や船、趣のある街並み、山手の住宅などを舞台にした小説を多く残しました。今月は「横浜の本」を紹介します。

★タイトルからして横浜★

○大崎梢『横濱エトランゼ』(913.6 オ)

横浜のタウン誌を発行する会社でアルバイトをしている女子高校生が主人公の、謎解き要素もあるお話です。

○東川篤哉『伊勢佐木町探偵ブルース』(913.6 ヒ)

『謎解きはディナーのあとで』の作家による、気軽に読めるミステリー小説です。

○真保裕一『こちら横浜市港湾局みなと振興課です』(913.6 シ)

こちらにも謎解き要素が少しあり、港湾局のお仕事をのぞけるような部分もある、読みやすい小説です。

○永井紗耶子『横濱王』(913.6 ナ)

○伊東潤『横浜1963』(913.6 イ)

○樋口有介『ぼくはまだ、横浜でキスをしない』(913.6 ヒ)

○蜂須賀敬明『横浜大戦争』(913.6 ハ)

○柞刈湯葉『横浜駅 SF』(913.6 イ)

★文豪たちの描いた横浜★

○三島由紀夫『午後の曳航』(文庫 913.6)

「横浜山手の邸宅」や「元町」などが舞台の作品です。そこはかたない艶かしさや残酷さすら漂う三島由紀夫の世界が凝縮されたようなこの小説は、横浜という舞台があって活着しているように思います。

○中島敦『かめれおん日記』(918 ナ『中島敦全集第一巻』より)

横浜高等女学校の教師をしていた中島敦が日記のような文体で綴った話の中に、「南京町(中華街)」「山手の丘」「外人墓地」「代官坂」などが出てきます。

○川端康成『乙女の港』(918 カ)

山手の女子校が舞台となっている小説で、主人公の一人のすまいは「弘明寺」です。

○谷崎潤一郎『痴人の愛』(文庫 913.6 タ)

ラストにちょっとだけ、横浜の洋館が出てきます。

★これも、横浜の本★

○佐藤多佳子『いつの空にも星が出ていた』(913.6 サ)

ベイスターズファンにはたまらない、ファン視点の短編集です。

○小湊悠貴『ホテルクラシカル猫番館』集英社(文庫 913.6 コ)

山手の丘の上のホテルが舞台の小説です。おいしそうな食べ物や元町の素敵なお店も魅力的で、ホテルの世界のあったかいお話にも癒されます。新しい恋の予感も感じさせるシリーズは文庫版で4巻まで出ています。

○山田清機『寿町のひとびと』(368 ヤ)

石川町駅近くの「寿町」は、日本三大ドヤ街のひとつといわれています。その街で丹念な取材を行い書き綴ったノンフィクションです。華やかさとは真逆の横浜の姿は衝撃的ですが、どこかに人間臭さが感じられます。

○横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト写真集編集委員会編『koko 横浜』(748 ヨ)

この写真集は、本のサブタイトルのとおり「外国につながる」ではひとくりにできない中高生の作品集、です。横浜に住む、様々な外国にルーツをもつ子どもたちが、自分らしさを写真で表現しています。

📖 お料理の本 📖

お料理の本は先生方にも人気があります。体育科の S 先生や、商業科の H 先生はお料理の本を持ち帰り「これを作って！」と奥様に作ってもらうそうです。毎日の献立に悩む主婦や主夫にとっては、それが一番ありがたいかも！ 見ているだけでお腹が空いてくる、美味しそうなものがたくさん載っている本を紹介します。

★人気のつくりおき料理の本★

- 『つくおき』(596 ノ)
- 『作っておくと、便利なおかず』(596 ツ)
- 『秘密のストックレシピ』(596 シ)

★基本からしっかり料理を学びたい方のお料理本★

- 『和食の教科書』(596 カ)
- 『瀬尾幸子の料理の教科書』(596 セ)

★食材別やメニュー別に知りたい方のお料理本★

- 『日本一の卵レシピ』(596 ダ)
- 『畑レシピ』(596 ア)
- 『「人生最高！」の肉じゃが』(596 タ)
- 『からだに美味しい缶詰レシピ』(596 イ)
- 『みそ汁はおかずです』(596 セ)
- 『絶品！とっておきのうちカレー』(596 ツ) などなど

★生徒からのおススメ！料理本★

国語の授業で取り組んだブックレビューを S 先生に見せていただいたところ、2 年生の S くんが一風変わったお料理本の紹介をしていました。ご本人に承諾を得たので掲載します。

○坂口恭平『COOK』(596 サ)

☆内容の要約

前半は、作者が作った料理の写真とその時の気持ちが書かれている。レシピは全くない。
後半は、作者のこれまでの人生をもとに「料理とは何か」を独特な表現をしながら語られている。
今までの料理本とは少し違った、小説・日記のような本。

☆興味を持った点・有意義だった点

- ・すべての創造の源が料理
- ・料理の効用の一つ「手首から先運動」が得意になる。
- ・普段料理しながら考えていることとは全く違った考え方や、作者独自の視点。

☆この本の魅力をほかの人に勧めてください（どんな人におすすめか、どんな時に読むといいか）

- ・普段あまり料理をしない人
- ・毎日の生活に疲れている人
- ・何かしらに悩んでいる人
- ・「継続」ということが苦手な人でも、一度この本を読むとできるように、あるいはしたくなるかもしれません。

📖 今月のおすすめ本 📖

○JobPicks 編集部編『JOB PICKS 未来が描ける仕事図鑑』(366 ニ)

新しいタイプの仕事図鑑です。「コンサル系の仕事」「マーケティング・分析関連の仕事」「プロダクト・サービス開発の仕事」「公務員の仕事」などの 8 つの章があり、会社で仕事を選ぶのではなく、JOB で仕事を選ぶための本となっています。「転職しやすさ」や、その仕事に就けなかった場合の「似た仕事 MAP」、その仕事を目指すなら「読むべき本」やなどが書かれています。おぼろげだった将来像がはっきり見えてくるかもしれません。

Y校アーカイブ vol. 3 「美澤先生と渋沢栄一」

前から二列目の真ん中に渋沢栄一、後ろから二列目の、右から四番目に立派なお髭を蓄えた初代校長の美澤進先生が写っています。

日比谷の成田写真館による写真ですが、いつ撮ったのか、何の集まりだったのかの記録がありません。天井が高く、意匠を凝らしたモダンなしつらいのお部屋がどこなのかも残念ながらわかりません。

